目指せ！ネットエスパー

インターネット新検索術

インターネットの中に潜む膨大な情報たち。そこから欲しいものを見つけ出して活用するには、もはや１検索サイトだけでは役に立たない。ネットの海を自在に泳ぎ、必要な情報をすぐ取り出し活用する、そんな「ネットエスパー」に変身すればインターネットの利用価値は無限大になる。この連載で「ネットエスパー」に変身するスタートを切ろう！

二木麻里（ARIADNE運営）　Jump ariadne.ne.jp
Illust : Ebisu Yoshikazu

第５回　本格派レポートの資料を探す

いよいよ4月。会社や学校で山のようにレポートを書かされるうれし涙の年度始めだ。ちんぷんかんぷんのテーマを投げられた。さあどうする。資料なんてろくに見当も付かない。図書館で探すにしてもどこにあるのやら。だからネットで検索すればいい……。ここまでは常識だ。でも、キーワードを検索してそれらしいEテキストを拾い、切り貼りして出来上がり。そういう小手先の使い方はもうよそう。きちんと「基礎資料を探し」、「文献を読み」、「密度の高い議論を重ねる」という美しいやりかたもある。確かに本格資料は手ごわい。専門家は忙しい。だがそういうルートを探せるのもネットだ。調べものの王道を行くには、さてどうすれば？

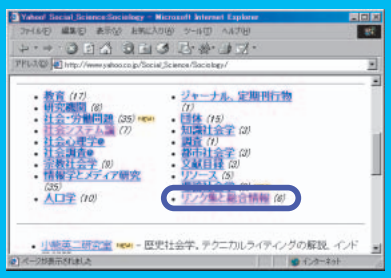
1　Yahoo!から「社会システム理論」をたぐる

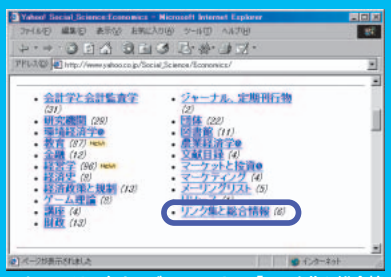
突然上司に呼ばれたカズ君。「キミは学校で社会学専攻してたんやったな」「はあ」「オートポイエーシスっちゅうのはなんや」「……知りません」聞いたような聞かないような。「ドイツ本社のお偉いさんが来るやろ。社会システム論やらそのオートポイエーシスがどうしたいうて、いっつも話すんやて」「あの博士号持ってる人ですか」「そや。キミ、うちの社長が恥かかんよう資料集めて説明してんか。レセプションあるさかい。昇進かかっとるで」

社会システム論。オートポイエーシス。うーむ、全然わからない。だがなんとかせねば。確立された学問分野なら、とりあえずディレクトリー型の検索サイトを試してみよう。あらかじめリソースが領域別に分類されている。特にこういう学術理論系のリソースにはYahoo!が強いという定評がある。

まずYahoo!に行く。いつもならすぐ検索するところだが、トップページの中ほどに「芸術と人文」、「コンピュータとインターネット」などのカテゴリーリストがある。ここから「社会学」を選んでたどってみよう。「社会システム論」が7本ある。Yahoo!のカテゴリーリストを眺めるときは、「リンク集と総合情報」が6本あるな、ということも気に留めておこう。多数の関連サイトをひとまとめにリンクして紹介するゲートサイトがここに置かれる。分野を垂直に降りる入り口、いわゆるヴォータルだ。ときに強い手がかりになる。

Yahoo! JAPAN
Jump www.yahoo.co.jp





Yahoo!では、各カテゴリーリストの「リンク集と総合情報」に注目。

ディレクトリー：コンピュータの世界で、ディスクなどにあるファイルを管理するための仕組み。ツリー構造をしたディレクトリーによってファイルが階層的に管理されている。検索サイトにおいてサイトをカテゴリーごとに分類、整理する方式を、ロボット収集型のサイトに対してディレクトリー形式と呼ぶことも多い。

インターネットマガジン／株式会社インプレス JPRS
©1998-2000 Impress R&D

2 ヒット結果やリンク集を手元で比較

さて「社会システム論」のリスト内容をざっと見てみる。社会学的リスク研究、カリキュラム理論、ペルクソン研究、ルーマン、シュタイナー、○○研究室……。うーん困った。どれを選んでいいのかわからない。ここが専門リソースのネックだ。

このとき道は3つある。❶上からしらみつぶしに見る。❷戻って「リンク集と総合情報」を見る。❸このページをキープしたまま新しいウィンドウを開き、検索し直す。❶と❷では結局しらみつぶしになって面倒そうだ。すると❸か……。

ちなみに、検索のプロセスでは、手がかりになりそうなリストのページは、そのつどブラウザーのページごとキープしておくほうがよい。枝分かれする前の調べ物の「ステム（幹）」をいくつも手元にためていきながら進む。「ステム」を確保すると、検索サイトだけでなく、異なるリンク集同士を比較するときに効く。複数のステム同士で、リストアップされたリソース群が重なってくるのだ。言わば情報の河が合流してくる。

特に「狭い専門分野」内の探すときに、紹介されているリソース内容がある程度重なるときは、的から外れていない。それは往々にして近しい研究者同士の発信で、自分はその範囲の中にいる。だが非常に早く内容が重なるなら、その分野のオンライン資料は概して未発達で、全体量も少ない。それ以上よそへサーフせず、その中でまず基盤になりそうな総合サイトを探す。

ここでいう総合サイトとは、1つの分野で調査研究を行うために必要な各情報がまとめて提供されているものを指す。たとえば用語集や辞書。研究機関の一覧。研究者の個人サイト集。主要文献一覧。邦訳書籍の網羅的なリスト。さらに学会や催しの予定表など。こうした項目がすべてある必要はないが、判断する手がかりになる。

3 サイトの紹介文を分析する

さて、❸の方法をとった。つまり別の検索を試す。まだキーワードを使っていないからだ。持ち駒であるキーワードを武器に検索をかける。Yahoo!のキーワード検索で「オートポイエーシス」を調べると、2件出てくる。しかしこれはなんと生態学の分野だ。「自然科学と技術:生態学、エコロジー:生態系」のカテゴリーに「オートポイエーシス論」がある。

あれれ。いったい社会学なのか自然科学なのか。しかたがない、三度目の正直。「社会システム論 オートポイエーシス」と組み合わせて入力。来た来た、ヒットは20件。「システム論のアプローチ」、「システムダイナミクス」……。紹介文をぱっと見ると、かなり言葉の水準がまとまっている。つまり互いに理論レベルが近いのだ。こういうときは、このリソース群からある程度「出どころ」を探れる。決心して上から紹介文を全部読む。もちろん内容はよくわからない。わからないままとりあえず全部読む。あるテーマを自分に「仕込む」のだから通常の調べ物と違う。いきなり「これが答え」とせずに情報全体を眺めるわけだ。サイト名の下に添えられた紹介文（引用文）から、いくつか内容を推測してみよう。

- IC17/BOOKS 50/42
  1984 沼田寛 著者たちが（オートポイエーシス）と呼ぶ自己組織系のロジックを，たいへん凝ったスタイルで解説した書物である．オートポイエーシスは，自己創出などと訳される．「生物は絶えず自己を産出しつづける...
  http://www.nttlcc.or.jp/pub/ic_mag/ic017/books50/42.html

メモ：これは文献。書評らしい。有望。

- chienoki
  title 知恵の樹〜生きている世界はどのようにして生まれるのか 〜 author ウンベルト・マトゥラーナ、フランシスコ・バレーラ translater 菅啓次郎 press 朝日出版社 ISBN4-255-87028-4 [書評1]前のページへ] 評者
  http://www.mag.keio.ac.jp/%7Etsk/concon/bib/fwd/2.html

メモ：これも書評。文献の出版元まで書いてある。有望。

- ディヴィドソンの因果説
  ディヴィドソンの因果説
  http://www.netlab.co.jp/%7Eshugo/thesis/node4.html

メモ：関連する学説か？ 保留。

- LYCOS 社会・マスコミ - 社会学
  [全てを検索]ホーム |マイライコス |メールシティ |トライポッド |ヘルプ|2000年01月28日金曜日くるまさがしは ライコス オートセンター |ホーム / 社会・マスコミ / [戻る]無料メールアドレス 今すぐ登録 !! |■...
  http://www.lycos.co.jp/dir/society_mass_media/sociology

メモ：タイトルとURLを見ると別の検索サイトLYCOSの社会学部門。サブリソースか。

- 日曜社会学応答
  応答 奇特にも「日曜社会学」の部屋を訪れていただき、さらに奇特にも感想・コメントなどを残していってくださった方々との「応答・交歓」のページをつくりました（というか、やっとそういうのが作れるようになるは...
  http://www.at-m.or.jp/%7Egallus/sa/misc/luhmann/session-n.html

メモ：専門家の個人サイトか。フォーラムとあるからメーリングリストか掲示板あり。有望。

- メモ帳
  メモ帳 新着順 1 → 10 最大記録保持数 500 概念:システムダイナミクス 投稿日 1999年10月20日(水)23時19分 投稿者 旭貴朗 [] 1. 理論 システムダイナミクスとは，差分方程式で表現できる因果的現象を，コンピュ...
  http://www.mng.toyo.ac.jp/%7Easahi/education/memo/miniShow.cgi

メモ：「投稿・新着」は掲示版の特徴。日付はそう古くないから有望。

- articles of AN10045090
  人文論叢 : 三重大学人文学部文化学科研究紀要 = Jinbun ronso / 三重大学人文学部文化学科 = Bulletin of the Faculty of Humanities and Social Sciences (AN10045090) |1 (1984/00/00) |1|伊藤 達雄|創刊の辞 [00...
  http://www.nacsis.ac.jp/soluho/articles/AN10045090.html

メモ：紀要。タイトルだけかもしれないがEテキストの可能性。有望。

掲示板：ブラウザー上で投稿した話題に返信を付ける形でコミュニケーションができるようにしたページ。開設するにはサーバー上で動くプログラムが必要になる。自分でCGIプログラムを設置するほかに、プロバイダーが提供するサービスや無料や有料のレンタル掲示板も利用できる。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2000 Impress R&D

4 紹介文からリソースを分類

紹介文からサイトを推定する作業に慣れると取捨選択もしやすくなる。前ページに挙げたリソースは7本だが、推定に従って仮分類すれば、Ⓐ書評（書籍）2、Ⓑ研究紀要ないし講義録1、Ⓒ掲示板あるいはメーリングリスト2、Ⓓ関連学説1＋社会学検索ページ1となる。

ふーん。カズ君はうなずく。「自己組織系のロジック」、「生物は絶えず自己を産出しつづける…」、「自己創出」。さっき生態学が出てきてあわてたけど、オートポイエーシスって自然科学と社会学の両方にまたがっていそうだ。お、けっこう面白いかも……。

Ⓐ書評（書籍）
「IC17/BOOKS_50/42」
Jump www.ntticc.or.jp/pub/ic_mag/ic017/books50/42.html
「chienoki」
Jump www.mag.keio.ac.jp/~txk/concon/bib/fwd/3.html

Ⓑ研究紀要ないし講義録
「articles of AN10045090」
Jump www.nacsis.ac.jp/sokuho/articles/AN10045090.html

Ⓒ掲示板あるいはメーリングリスト
「メモ帳」
Jump www.mng.toyo.ac.jp/~asahi/education/memo/miniShow.cgi
「日曜社会学＃フォーラム雑記集01」
Jump www.geocities.co.jp/Hollywood/7122/f02.html

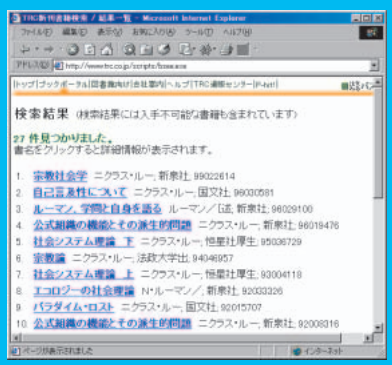
Ⓓ関連学説、社会学検索ページ
「デイヴィドソンの因果説」
Jump www.netlab.co.jp/~shugo/thesis/node4.html
「LYCOS: 社会・マスコミ - 社会学」
Jump www.lycos.co.jp/dir/society_mass_media/sociology/

5 書籍文献をネットで探す

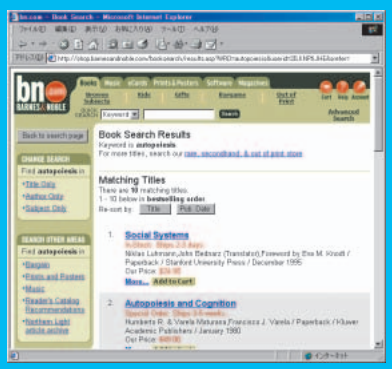
この手がかりⒶⒷⒸⒹの各方向でリソースにあたろう。まずⒶの書評。今回は「IC17/BOOKS_50/42」で『知恵の樹』という、ずばりオートポイエーシスの中心的な書物が丁寧に解説されている。ここだけで8冊の関連文献が紹介されていた。これは最優先に押さえる。そして書店検索サイトや図書館検索サイトで一気にこうした文献の入手を試みる。図書館検索の「NACSIS Webcat」は定番だが、新刊書店の在庫で探すなら、たとえば「ジェイブック」は解説が載っていて参考になる。またTRCの「ブックポータル」も書名や著者名などで検索できるサイトの1つだ。手がかりとなったリソースで何度も名前の挙がった人物名（たとえばルーマン）はメモしておき、これを著者名にして検索してみる。TRCでニクラス・ルーマンだと27件の和書がヒットする。現在入手できないものは古書店の検索サイトで探し、見つかればウェブ上で注文すればいい。「インターネット古書店案内」が代表的だ。遅くともこの邦訳文献を探す段階で「autopoiesis」など用語のスペルは拾える。

次いで原書や英訳書が必要だ。老舗書店「バーンズ＆ノーブル」のサイトは書名や著者名だけでなくキーワード検索ができる。たとえばautopoiesisで探せば10冊の英書がヒットしてくる。入手したこれらの文献を猛然と読み、併せて先ほどⒷに分類したオンライン文献にあたるという手順だ。

「NACSIS Webcat」
Jump webcat.nacsis.ac.jp
「ジェイブック」
Jump www.jbook.co.jp
「ブックポータル」
Jump www.trc.co.jp/trc-japa/
「インターネット古書店案内」
Jump kbic.ardour.co.jp/~newgenji/oldbook/
「バーンズ＆ノーブル」 Barnes and Noble
Jump www.bn.com


「ブックポータル」で「ルーマン」を検索した結果。

古書が検索できる「インターネット古書店案内」。


「バーンズ＆ノーブル」で「autopoiesis」を検索した結果。

リソース：インターネット上での情報源。ウェブページを指すことがあるが、それにとどまらず、画像や音声、電子メールやニュースグループのメッセージも情報源の1つ。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

6 専門分野のメーリングリストで深く長い探究を

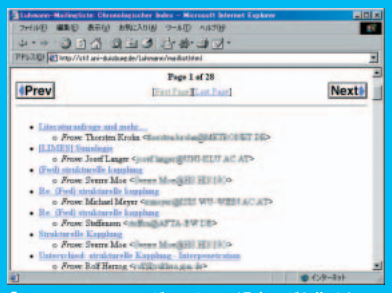
ここまで来たら質問が山とたまっているはずだ。カズ君の疑問もけっこう濃くなってきた。『知恵の樹』は生物学の本だった。生物学のオートポイエーシスは、社会システム論と具体的にどうかかわってきたのか。この理論はそれとは別に成立しているのか。いよいよ人にあたるときだ。前ページのⓖやⓗを手がかりに、このテーマで詳しい議論ができそうな人達を探す。また、LYCOSの「インターネットセンター」でメーリングリスト検索をしてもいい。軽く雰囲気を知るなら掲示板もよいが、発言者の背景がわからない。本格的な質問や議論はやはりメーリングリストが基本だ。

幸いⓖの2つの掲示板のうち「日曜社会学」にはメーリングリスト「ルーマン・フォーラム」が併設されている。だれでも参加できるが、「日本語で読めるWEB上のルーマン関連文献リスト」から「ルーマン・フォーラムメンバー」を見ると、どうやらこのテーマを深く研究している人達が多そうだ。ここから、原語の関連リソースもたどれる。たとえば「KOMATSU'S page」からはドイツ語のEジャーナル「社会システム」などへのリンクがある。ドイツ語のメーリングリスト「ルーマン・メーリングリスト」まであるのか……。やっぱり日本語のにしよう。

覚悟を決めてメーリングリストに入ったら、まず過去の投稿を取り寄せて読む。そして現在の議論の流れを知る。雰囲気がつかめたら自己紹介をし、これまで自分がどんな背景でどんな資料を読んだか、課題は何かといった状況の説明を具体的に添えたうえで、知りたいことを人々に尋ねてみるといいだろう。相手も答えやすい。

「できました！」こうしてぴかぴかのリポートを仕上げたカズ君。文献もどっさり、概説もばっちり。研究者のバイオグラフィーまで付いてもう完璧、しかし……「あ、おつかれさんやったけど」と憂鬱そうな上司の顔は何？「キャンセルや、お偉いさんの来日。うちはよそと合併やって。リストラもあるかわからへん」「そ、そんな」「そのリポートえらいぶ厚いなあ。たかが接待用やないか。ほかの仕事しとったんか？」……。あやうし、サラリーマン生活。

メーリングリストを検索できるLYCOSの「インターネットセンター」



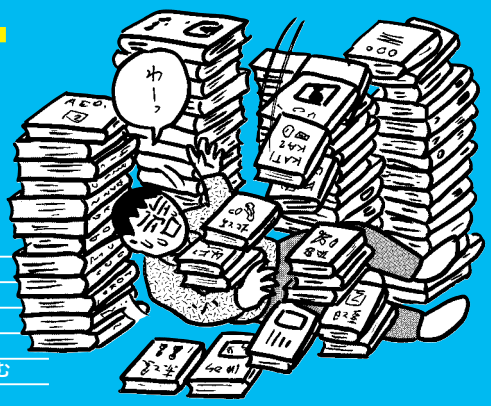
「ルーマン・メーリングリスト」の過去ログを集めたページ

「LYCOS インターネットセンター」
Jump www.lycos.co.jp/internet/
「日曜社会学」
Jump www.at-m.or.jp/~gallus/sa/misc/luhmann/
「KOMATSU'S page」
Jump www.sal.tohoku.ac.jp/~takeaki/
「Soziale Systeme」
Jump www.uni-bielefeld.de/sozsys/
「Luhmann Mailingliste Archiv」
Jump stii.uni-duisburg.de/Luhmann/

7 今月のポータルキット

未知の分野に入るとき、文献探し1つをとってもネットが優れたツールになるのは間違いない。特にメーリングリストの機能は大きい。あるテーマを知悉した人々や、自分と近い疑問を持つ人々の集う場を探すことは前よりずっと楽になった。もちろんメーリングリストは自動回答機ではない。基本的に「対話を重ねていく」ための場だ。名前も名乗らずコマンドを実行するような態度でものを尋ねるのは論外としても、思わぬ返事に答えるために自分でさらに勉強しなければならないことも多い。ネットのむこうにいるのは機械ではない、人間だ。必ずしも「A」と言えば「B」のように単純な答えの出ない世界。だからこそよい。ネットを通して「人」を乞う意味もあるではないか。

1	導入	検索サイトで分野別リストを調べる
2	比較	複数の手がかりを比較検討
3	確定	サイト紹介文から資料の種類を推定
4	分類	種類別に手がかりを整理
5	文献	必要な書籍・文献を入手して読み込む
6	対話	メーリングリストで質問・対話



二木麻里（ふたき まり）
上智大学外国語学部卒。翻訳家。社会・人文科学系の国内外資料を案内した総合サイトARIADNEを運営。自著に『思考のためのインターネット』（筑摩書房ちくま新書）など。

メーリングリスト：電子メールを使い、あるテーマについて複数のユーザーの間で情報を交換すること。多くの場合、複数ユーザーを1つのグループとしてメールサーバーに登録し、情報を同時に配信する仕組みをとっている。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

［インターネットマガジン　バックナンバーアーカイブ］ ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D（株式会社インプレスから分割）が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン　バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

http://i.impressRD.jp/bn

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容（技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど）は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者（執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など）が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元（株式会社インプレスR&D）、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D（当時は株式会社インプレス）と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先
株式会社インプレスR&D
All-in-One INTERNET magazine 編集部
im-info@impress.co.jp

Copyright © 1994-2007 Impress R&D, an Impress Group company. All rights reserved.